

大阪工業大学 学生員 ○三城祐二
大阪工業大学 正会員 岩崎義一

1. はじめに

京都市伏見区は、伝統産業である酒蔵などがあり観光要素の濃いまちとして有名である。特に伏見南浜界わい景観整備地区は、京都市指定の歴史遺産型美観地区(都市計画法による景観地区の1つ)として伝統産業である酒蔵のほか歴史的建造物である寺院・神社の景観を保全しており、現建造物は界わい景観建造物として酒蔵等の景観と調和した伝統的様式のある町家を多く残している。しかし、この地区の中であっても歴史的な建物や伝統様式は年々減少している。長きに亘って維持し護られてきたまちなみは住民のアイデンティティーによるところが大きいと思われ、このアイデンティティーを後世に残しその土地の特色を残していくことは、歴史的建造物や伝統様式を残していくことと軌を一にするものであろう。

そこで本研究では、対象地区の住民が自分たちのまちに持っている愛着の程度や保全対策への意識の実態等のアンケート調査により、まちなみを存続させる為の条件を明らかにすることを目的とする。方法は、伏見南浜界わい景観整備地区の住民に対してアンケートを実施した(実施日:2010年10月17日、20日、27日 有効回答件数:80件)。なお、歴史的建造物の集積状況等に照らして地区をA、B、C地区の3つに分類した。(図-1)

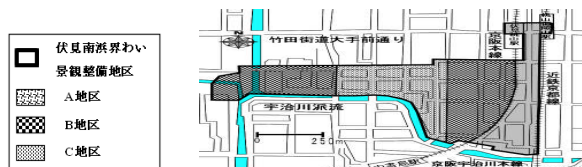


図-1 伏見南浜界わい景観整備地区

2. 住民のまちに対する意識

住民が自分たちのまちに対してどういった意識を持っているのか認識について聞いたところ、「酒蔵や寺田屋があり観光地として魅力がある」と答えた割合が約70%と最も高く、次いで「歴史的な建物が多く残り風情がある」が約60%と高かった。この2項目を伏見に対する『観光資源としての資質』(主項目1)と定義する。

住民のまちに対する好感度については、「好ましい」と答えた割合が約80%と高く、この項目を『強い愛着』(主

項目2)と定義する。また、「伏見で誇りに思う対象」を選んだ理由については「伏見の伝統的なものだから」と答えた割合が約60%で最も高く、この項目を『歴史・伝統の存在』(主項目3)と定義する。

以上の主項目1,2,3と「伏見で誇りに思う対象は何か」の質問とで見た(主項目に対応した項目(選択肢)とのクロス集計)ところ、全ての項目で「酒蔵・記念館通り」が約70%の割合を占めている。こ

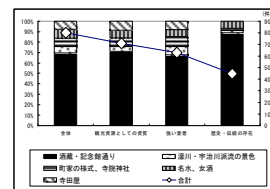


図-2 誇りとなる対象別
まちに対する意識の主項目

のことから、住民のまちに対する意識には、「酒蔵・記念館通り」の存在が大きく影響している事が分かる。(図-2)

以上より住民は、まちに対する愛着が大きく伝統産業を象徴する酒蔵を誇りに思い観光資源としても魅力があると考えており、自分たちの暮らすまちを歴史と伝統に培われた“魅力のあるまち”だと考えていると言えよう。

3. 住民が抱く来訪者の伏見好感度向上の条件

住民が来訪者にどんな伏見像を期待しているのかを、来訪者に抱いて欲しいイメージとして聞いたところ「歴史的な建物が多く残り古風な雰囲気を感じることの出来るまち」の割合が約40%で最も高く、次いで「伝統や歴史的なまちなみを現代まで守ってきたまち」が約25%だった。この2項目を『歴史・伝統を感じるまち』(主項目4)と定義する。また、来訪者が抱く伏見像のイメージアップの為に貢献できることを聞いたところ「伏見に関する知識をつける」の割合が約60%で最も高く、この項目を『伏見の知見の涵養によるもてなし』(主項目5)と定義する。

以上の主項目4,5と「伏見で誇りに思う対象は何か」の質問とで見た(主項目に対応した項目(選択肢)とのクロス集計)ところ、全ての項目で「酒蔵・記念館通り」を選んだ割合が約60%あり最も高かった(図-3)。

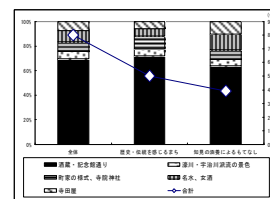


図-3 誇りとなる対象別
伏見好感度向上条件の主項目

このことから、来訪者に抱いて欲しい意識の高さには、「酒蔵・記念館通り」の存在が大きく影響している。

以上のことから住民は、来訪者に酒蔵などのまちの歴史や伝統から風情を感じてもらいたいと思っており、この為には住民自らが伏見の知見を涵養することで質の高いもてなしができると考えている。よって住民は、来訪者に自分たちのまちを“歴史・伝統の息づくまち”だと認識して欲しいと考えている。

4. まち空間とまちなみ保全の参画意識

前章までの主項目 1～5 について、住民の空間的特徴とまちなみ保全の参画意識を見るため「居住タイプ別」、「地区別」、「まちなみ保全への参画」で集計する。

		まちに対する認識		
		観光資源としての資質 (主項目1)	強い愛着 (主項目2)	歴史・伝統の存在 (主項目3)
来訪者の 伏見好意 度向上の 条件	歴史・伝統を感じるまち (主項目4)	・伝説65%、一部70%、普通55% ・A75%、B60%、C50% ・間接70%、建物65%、直接60%、支援30%	・伝説60%、一部70%、普通45% ・A60%、B50%、C50% ・間接60%、建物55%、直接50%、支援30%	・伝説20%、一部70%、普通40% ・A50%、B50%、C30% ・間接60%、建物45%、直接40%、支援30%
	伏見の知見の涵養による もてなし(主項目5)	・伝説60%、一部55%、普通40% ・A50%、B50%、C40% ・間接70%、建物55%、直接55%、支援45%	・伝説40%、一部45%、普通35% ・A40%、B35%、C35% ・間接50%、建物50%、直接50%、支援45%	・伝説30%、一部60%、普通30% ・A35%、B30%、C40% ・間接50%、建物35%、直接40%、支援45%

注：○内は全件数80を100とする構成比

主項目 1～3 に対応した項目と主項目 4～5 に対応した項目とのクロス集計を行った結果は表-1 の通りであり、構成比が高いほど歴史・伝統に培われたまちでの暮らしの矜持を持っていると考えられる。以下最も構成比の高かった主項目 1 と 4 の組み合わせに限定して評価する。居住タイプは、「伝統様式のある家屋」、「一部伝統様式のある家屋」、「普通の家屋」の 3 タイプに分類し、地区は観光資源が集積している「A 地区」、A 地区に隣接した「B 地区」、線路で挟まれまちから隔離された「C 地区」の 3 タイプに分類した。

居住タイプ別集計では自分の家屋に町家の伝統様式を取り入れている住民の約 70%に達しており、地区別集計では「A 地区」の住民の約 70%に達し、「B 地区」でも約 60%に達している。また、まちなみ保全への参画別集計では「直接参画」、「間接参画」、「建物協力」といった実働を伴う参画の回答者の割合が約 60%に達している。

このことから、伝統様式のある家屋や観光資源の多い地区の住民ほど、まちなみ保全に対して実働での参画を望んでいることが分かる。

5. 住民のまちに対する意識構造分析

前章までの住民意識の特徴や空間的特徴を総括するべく 2 章で考えられた“魅力のあるまち”、3 章で考えられた“歴史・伝統の息づくまち”を潜在変数として共分散

構造分析を試みた。

図-4 を見ると“魅力のあるまち”と“歴史・伝統の息づくまち”はお互いに強く影響しあっており、“魅力のあるまち”はまちへの認識、好感度、居住タイプに大きく関わっている。“歴史・伝統の息づくまち”は来訪者が抱く伏見像のイメージアップの為に貢献できること、地区、居住タイプと大きく関わっている。

以上のことから、我がまちに対する認識“魅力のあるまち”と我がまちの来訪者に期待する意識“歴史・伝統の息づくまち”は相互に深い関わりを持ち、住民の矜持となっていると考えられる。

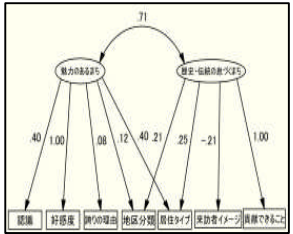


図-4 共分散構造

そして暮らすまちの景色や居住タイプ、まち保全への貢献の意識がまちへのアイデンティティをより一層深め、住民の矜持を確かなものとしていると考えられる。

6. 総括

以上の分析によって以下の点を明らかにした。

- ①住民は、まちに対する愛着が大きく愛着をもっている対象は伝統産業を象徴する酒蔵であり、酒蔵の存在が住民の意識に大きく関わっている。
- ②住民は、来訪者に自分たちのまちの長年培われてきた伝統産業を象徴する酒蔵などから歴史・伝統を感じてもらいたいという誇りを持っており、それを高める為に伏見の知見の涵養により質の高いもてなしが出来ると考えている。
- ③寺田屋・酒蔵などの観光資源の多い地区や町家の伝統様式を取り入れた家屋に住んでいる住民ほどまちなみ保全に実働での参画を望んでおり、それ以外の住民は実働を伴わない金銭での間接的な支援を望んでいる。
- ④伝統様式のある家屋や観光資源となっている歴史的建造物が住民の矜持となっており、この矜持が住民のまちづくりへの参画を促している。

以上のことより、まちなみ存続の為に地域的課題は、住民の矜持となりえる地域アイデンティティとして生活空間に存在する酒蔵、町家の伝統様式などの地域固有の歴史・伝統を保全していくことである。